

那智の滝事件から2年

主題のタイのジャングル46日間の沢登りと間奏曲のような日本や台湾の沢

孫には読ませたくない……

NPO法人 富士山測候所を活用する会

理事 土器屋 由紀子



外道クライマー

宮城 公博 著

集英社インターナショナル  
¥1,600 (+税)  
四六判 並製 288P  
2016年3月刊

近ごろの若いものは冒険心が足りないなどという人に読んでもらいたい。冒険(ムチャとカナを振りたい)、それも並大抵なものではない。死とギリギリの場所に自分を置きたい欲望が、キラキラした激語(悪絶とか悶絶とか)で飾られているが、それでも読ませてしまうのは、昨年度に開高健ノンフィクション賞の候補に最後まで残った文章力か? あるいは構成の妙か?

滝を登ったり、ぐちゃぐちゃの泥沼を何日も歩いたり、大蛇をのこぎりで切って食べた(りすることも含まれる)人種がいるらしい)にお願いしていることに気が付いた。昨年の御殿場班(※)は長期間、彼が引き受けたが、部屋はいつもきれいに整頓され、余計なものはずべて片づけてあった。300gのカラビナを荷物に入れておくかどうかで、生死を分けるような「研ぎ澄まされた」感覚が時々頭をかすめたのだろうか?

わかる。パートナーの高柳君(シャロキアンにワトソン君のファンが多いように彼のファンになりそう)との人間関係、リーダーとしての反省、言葉の通じない世界での「ニコニコ作戦」など、物語としても楽しく、地理的な説明などはきちんとした調査に裏付けられており、後味も悪くない。「富士山」本の隣に置いてもよいか。と思う。

※御殿場班: 山頂の作業のサポートと安全確保のために、毎年御殿場市にアパートを3カ月借用し基地としている。この当番は当初研究者のボランティアやアルバイトで繋いでいたが、最近、山頂班のメンバーが余った時間に格安で担当している。2015年は宮城氏がほとんどの期間担当した

※ NPO 法人富士山測候所を活用するブログから転載 ※ 筆者の土器屋由紀子さんの紹介が35Pに掲載されている